

那覇新港上屋設計図

=1 9 7 2=

番号	図名	番号	図名	番号	図名
31-1	特記仕様書	31-12	ハンガー・ ハンガー	31-23	鉄骨トラス詳細図
31-2	全上	31-13	ハンガー	31-24	全上
31-3	見取図・型図	31-14	器具表	31-25	鉄骨断面リスト
31-4	平面図 室内仕上表	31-15	雨水排水系統図	31-26	鋼管吊合部一覧表
31-5	上部平面図	31-16	雨水排水系統図	31-27	電気工事配置図
31-6	屋況図	31-17	基礎図	31-28	電気工事電灯配線図
31-7	屋況図	31-18	小屋伏図・軸組図	31-29	文書取扱番付係図
31-8	屋況図	31-19	コリドー・カハ軸組図	31-30	水道工事配置図
31-9	矩計図 (発火口詳細)	31-20	配筋図 陸関係	31-31	水道工事配管図
31-10	矩計図 (廊下等 ETC.)	31-21	配筋図 全上	32	
31-11	矩計図 (毒側発火口等)	31-22	臥置図	33	

特 記 事 項

1. 予て申請記仕様書

2. 取 扱 則

2.1 適用範囲

2.1.1 この本工事に適用する部分は下記のとおりとする。

6.1.1, 6.2.1, 6.4.2, 6.2.7.a, 6.3.1, 6.3.2, 6.3.3, 6.3.4, 6.4.1, 6.4.2, 6.4.3, 6.4.4, 6.4.5, 6.4.6, 6.4.7.

6.5.1, 7.1, 8.1, 9.1, 6.10.1.a, 6.10.2.a.

2.2 部 材 材 料

2.2.1 鋼 材

鋼材は平炉、電炉、または転炉による鋼塊から製造され、あるいは鋼板、または帯鋼から

常圧抵抗溶接、抵抗ガス溶接、アーク溶接による製造されるものとする。品質、寸法、重量及び

寸法許容差等は JIS G 3444 (一般構造用炭素鋼鋼管) に規定された STK 41 とする。

1. 形鋼、L 形鋼、鋼板 JIS G 3101、一般構造用圧延鋼鉄 (SS41)、又は同等品。軽量形鋼は JIS G 3350 の SSC 41。

2. アーク溶接鋼は JIS D 4303 ライムチタニウム鋼とする。

2.3 組 立 工 作

2.3.1 現 場

組立寸法は軸心の交点座標を基準として計算し、必要に応じて現場による誤差発生を防止

するための施工方法を定めるものとする。

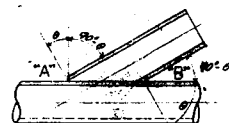
2.3.2 鋼管の加工切断

鋼管の切断は品質の均一化をはかるため、ノーマーキングによることを原則とし、鋼管の組立切断は

管端形状により、かつ両端切口閉鎖のしやすさから、両端同時に切断を可能とする。

1. 管端工法 (PIPAK SYSTEM) は同管の加工に適用する。なお鋼管の閉鎖は下図に示す場合と

2. の閉鎖加工を要するものとする。ただし、管端の閉鎖は現場設置の承認を得る必要



"A" - 接合部

"B" - すき間

$\theta = 30^\circ \sim 45^\circ$

ガス切断による行う事ができる。

2.3.3 スリット切断

2.3.3.1 鋼管のセット挿入箇所またはスリットギヤップなどのスリット部はガス切断によるスランソー

による機械切断により両面同時に施す。スリット部を閉鎖するものとする。

2.3.4 密閉使用

鋼管の端部は熱間成形及びフラット溶接により完全に密閉するものとする。

2.3.4.1 現場組立の取合ボルト穴及び母屋 (鋼管) の取合ボルト穴の加工は穴の精度を高める

ために一定間隔にセットされた 2 本のセットドリルはボランチにより個々の穴をマーキングすることなく 2 個

同時に穴明け工と穴の精度を高めるものとする。

2.3.5 組立

組立は現寸を基準とした治具を製作して行う。寸法精度、均一化を要するものとする。

2.4 溶接工作

2.4.1 2 つの管の端部とアライメント、溶接の場合

2.4.1.1 溶接方法は炭素鋼溶接とする。

2.4.1.2 管の側面接合のしやすさを考慮するものとする。

2.4.1.3 すき間溶接の場合 すき間サイズは薄い方の管の厚さの 1/2 倍以下とする。

2.4.1.4 端部は内部防錆の工を要するものとする。

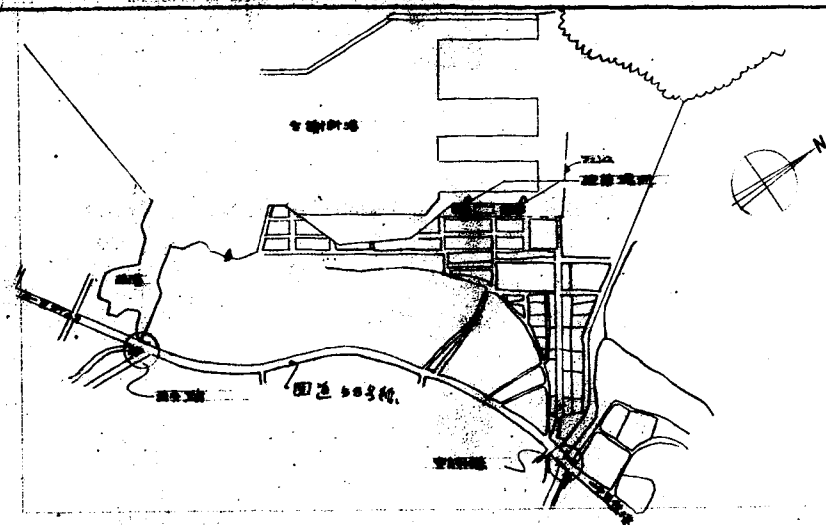
2.5 塗装

2.5.1 鋼管の塗装は、現場設置の承認を得る必要

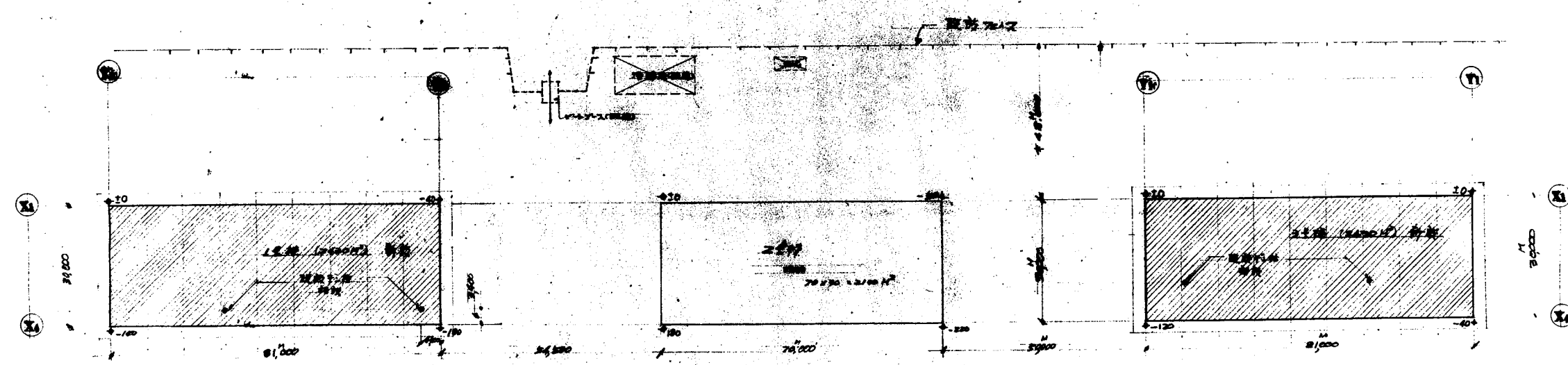
1/22/92 那覇製造 新築工事

11 2

72MD001-003



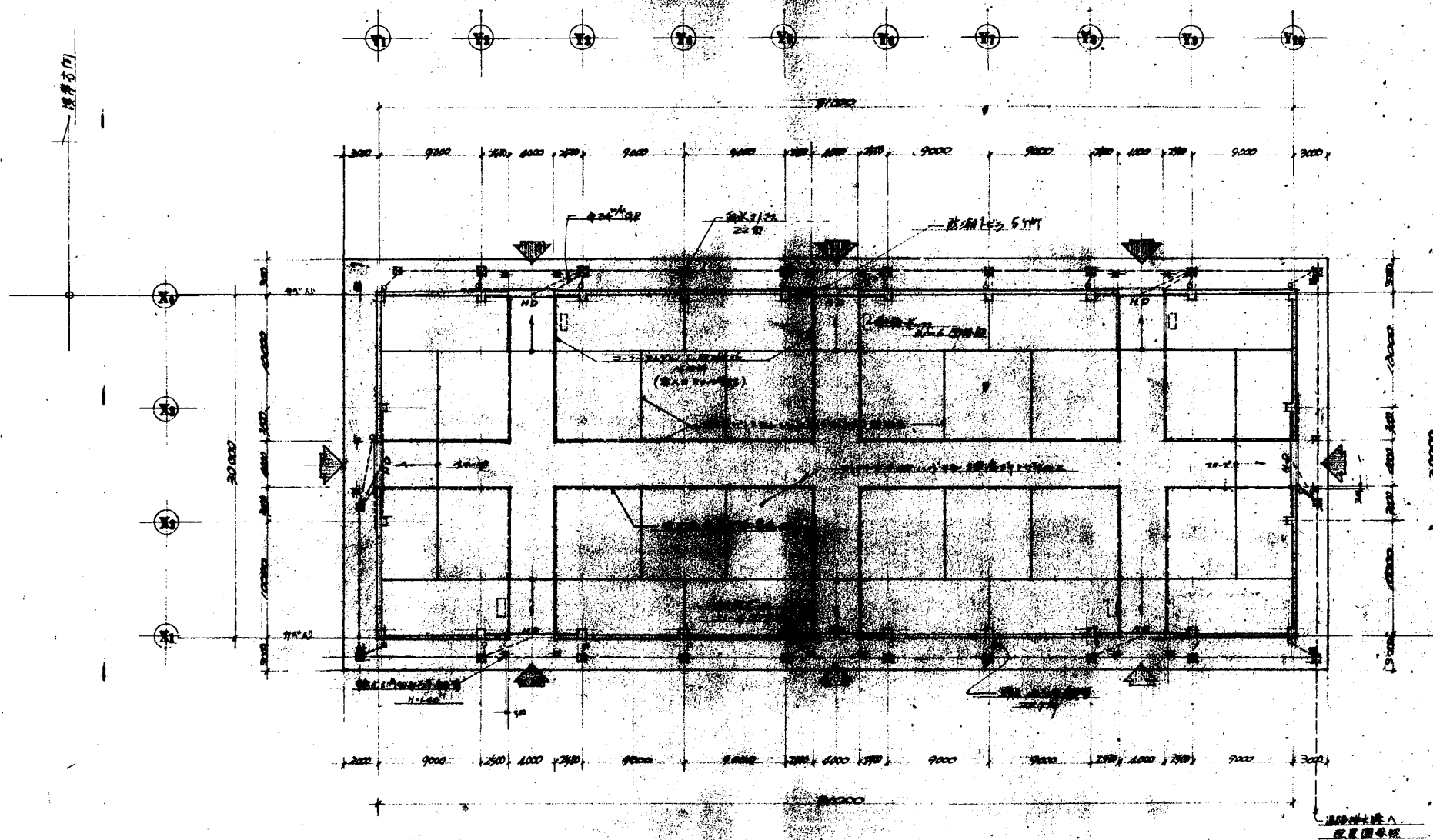
見取図



見取図 1:1,000

1972年度	
変更	
那覇新築工事 新築工事	
設計	見取図
製図	電図 5/100
校訂	31-3
承認	
建築士登録	第104号

72MD001-004



建築概要		
構造	鉄骨	鉄骨コンクリート造 (コンクリート造)
土体	基礎	鉄骨基礎
外部仕	外装	鉄骨外装 (鉄骨柱・鉄骨梁・鉄骨トラス・鉄骨下地・鉄骨上地・鉄骨中地・鉄骨外周・鉄骨内周・鉄骨天井・鉄骨床・鉄骨壁・鉄骨窓・鉄骨扉・鉄骨階段・鉄骨エレベーター・鉄骨エレベーターホール・鉄骨エレベーターシャフト・鉄骨エレベーター機室・鉄骨エレベーター制御室・鉄骨エレベーター監視室・鉄骨エレベーター修理室・鉄骨エレベーター倉庫・鉄骨エレベーター事務所)
内部仕	内装	鉄骨内装 (鉄骨柱・鉄骨梁・鉄骨トラス・鉄骨下地・鉄骨上地・鉄骨中地・鉄骨外周・鉄骨内周・鉄骨天井・鉄骨床・鉄骨壁・鉄骨窓・鉄骨扉・鉄骨階段・鉄骨エレベーター・鉄骨エレベーターホール・鉄骨エレベーターシャフト・鉄骨エレベーター機室・鉄骨エレベーター制御室・鉄骨エレベーター監視室・鉄骨エレベーター修理室・鉄骨エレベーター倉庫・鉄骨エレベーター事務所)
建具	窓	鉄骨窓 (鉄骨柱・鉄骨梁・鉄骨トラス・鉄骨下地・鉄骨上地・鉄骨中地・鉄骨外周・鉄骨内周・鉄骨天井・鉄骨床・鉄骨壁・鉄骨窓・鉄骨扉・鉄骨階段・鉄骨エレベーター・鉄骨エレベーターホール・鉄骨エレベーターシャフト・鉄骨エレベーター機室・鉄骨エレベーター制御室・鉄骨エレベーター監視室・鉄骨エレベーター修理室・鉄骨エレベーター倉庫・鉄骨エレベーター事務所)
設備	設備	鉄骨設備 (鉄骨柱・鉄骨梁・鉄骨トラス・鉄骨下地・鉄骨上地・鉄骨中地・鉄骨外周・鉄骨内周・鉄骨天井・鉄骨床・鉄骨壁・鉄骨窓・鉄骨扉・鉄骨階段・鉄骨エレベーター・鉄骨エレベーターホール・鉄骨エレベーターシャフト・鉄骨エレベーター機室・鉄骨エレベーター制御室・鉄骨エレベーター監視室・鉄骨エレベーター修理室・鉄骨エレベーター倉庫・鉄骨エレベーター事務所)

平面図 1/100

面積 81.0 x 90.0 = 7290.0 m²

0. 平面 22.5 x 22.5 m
 1. 鉄骨 10.0 x 10.0 m (鉄骨柱・鉄骨梁・鉄骨トラス・鉄骨下地・鉄骨上地・鉄骨中地・鉄骨外周・鉄骨内周・鉄骨天井・鉄骨床・鉄骨壁・鉄骨窓・鉄骨扉・鉄骨階段・鉄骨エレベーター・鉄骨エレベーターホール・鉄骨エレベーターシャフト・鉄骨エレベーター機室・鉄骨エレベーター制御室・鉄骨エレベーター監視室・鉄骨エレベーター修理室・鉄骨エレベーター倉庫・鉄骨エレベーター事務所)
 2. 鉄骨 10.0 x 10.0 m (鉄骨柱・鉄骨梁・鉄骨トラス・鉄骨下地・鉄骨上地・鉄骨中地・鉄骨外周・鉄骨内周・鉄骨天井・鉄骨床・鉄骨壁・鉄骨窓・鉄骨扉・鉄骨階段・鉄骨エレベーター・鉄骨エレベーターホール・鉄骨エレベーターシャフト・鉄骨エレベーター機室・鉄骨エレベーター制御室・鉄骨エレベーター監視室・鉄骨エレベーター修理室・鉄骨エレベーター倉庫・鉄骨エレベーター事務所)

1972年度

那覇新港上屋 新築工事

設計 1972年7月1日

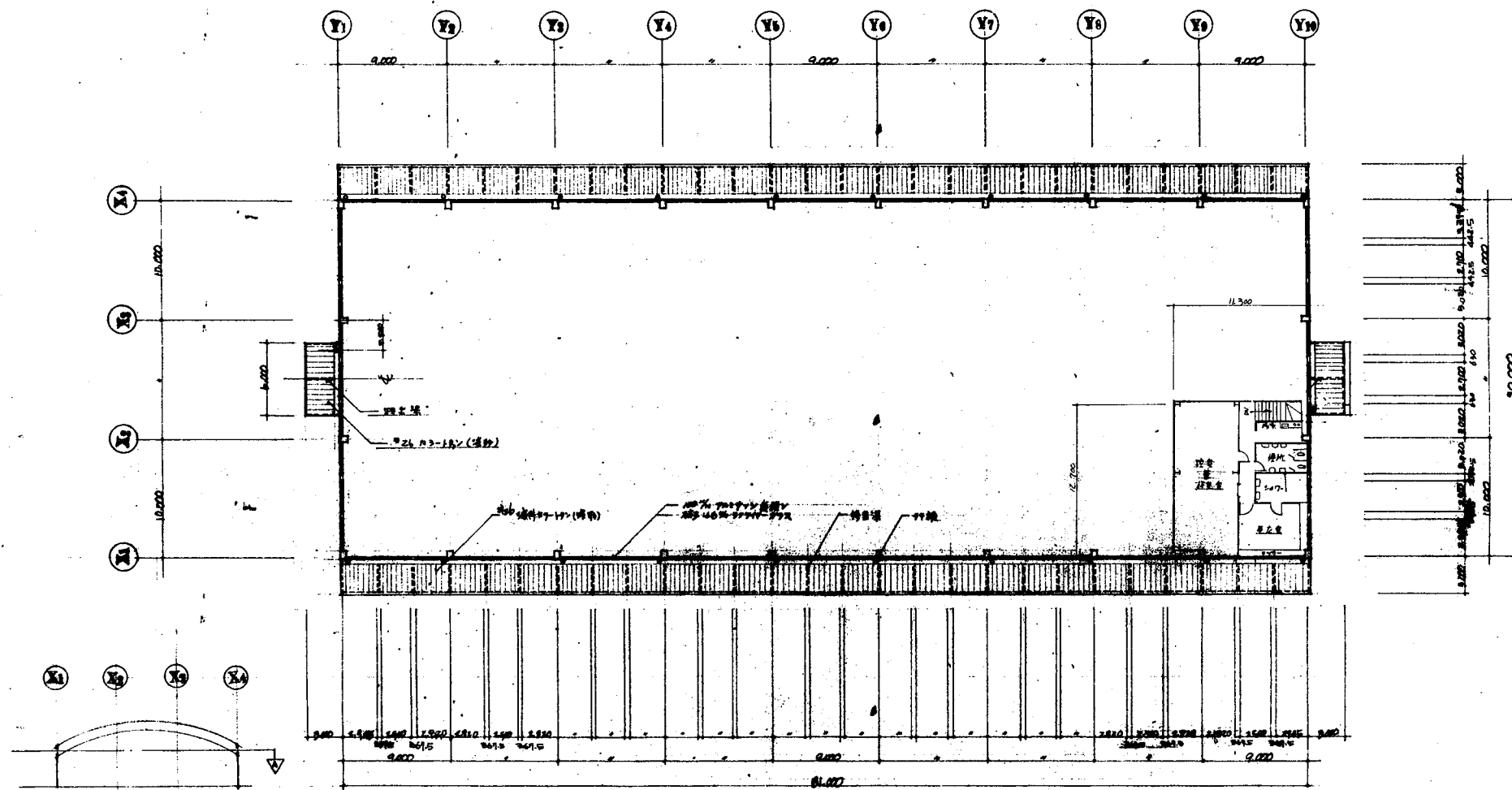
監理 区分

校正 図番 31-4

建築士登録 事務所登録第10-4

一級建築士 No.104号 時見良一 建築士事務所

72MD001-005

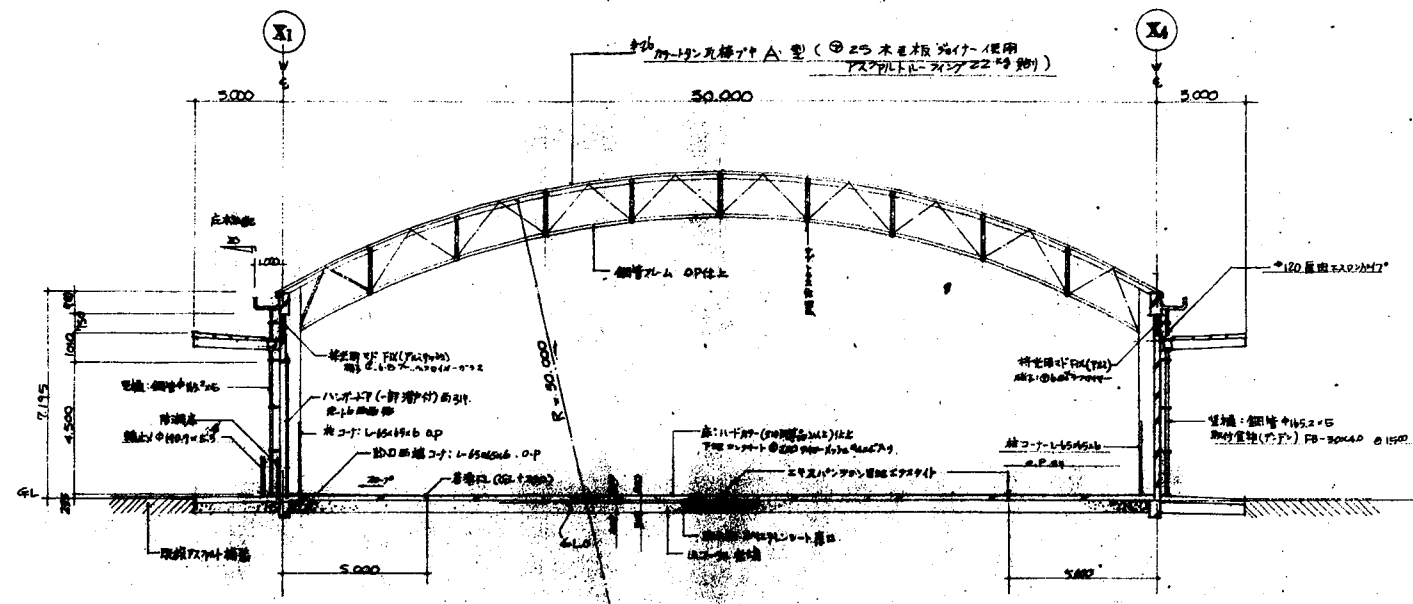


平面図 1/200

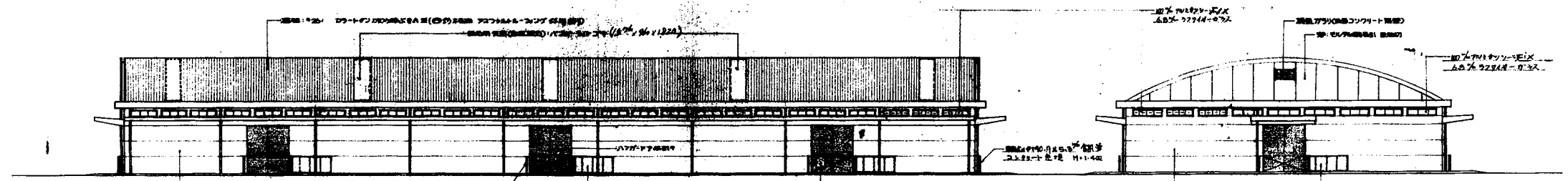
KEYPLAN

1972.7.2			
那覇新築工事			
設計	1972年7月15日	区分	
製図	31-5	図番	
校正	1/200	No.104号	
承認	事務所記録第10-4	総務課一級建築士事務所	

72MD001-006



基本断面図 1/100



立 面 図 SCALE 1:100

立 面 図 SCALE 1:100

1992年

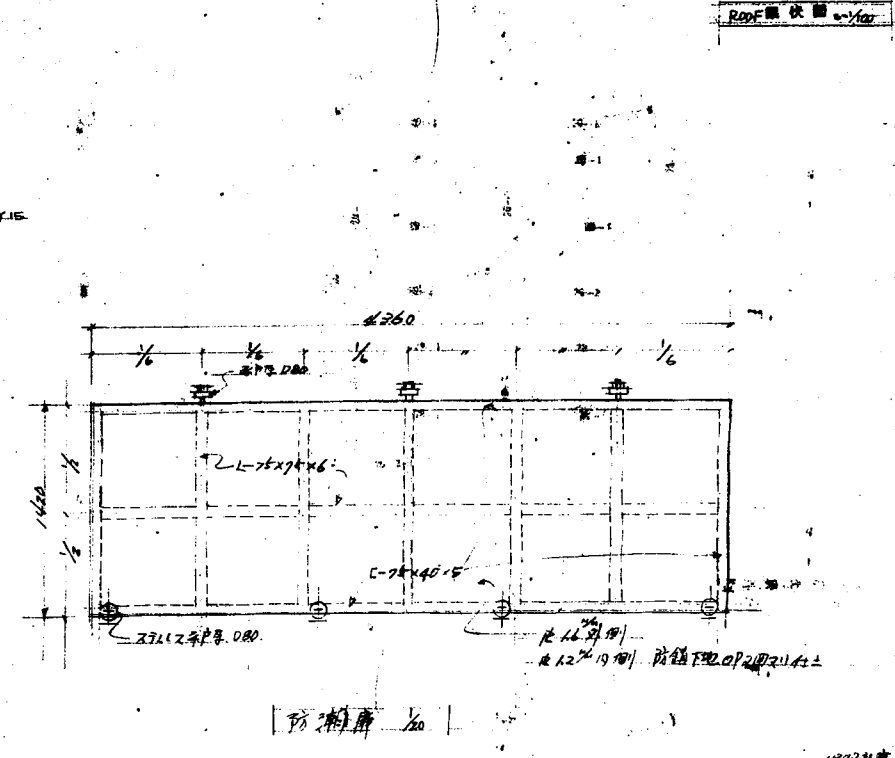
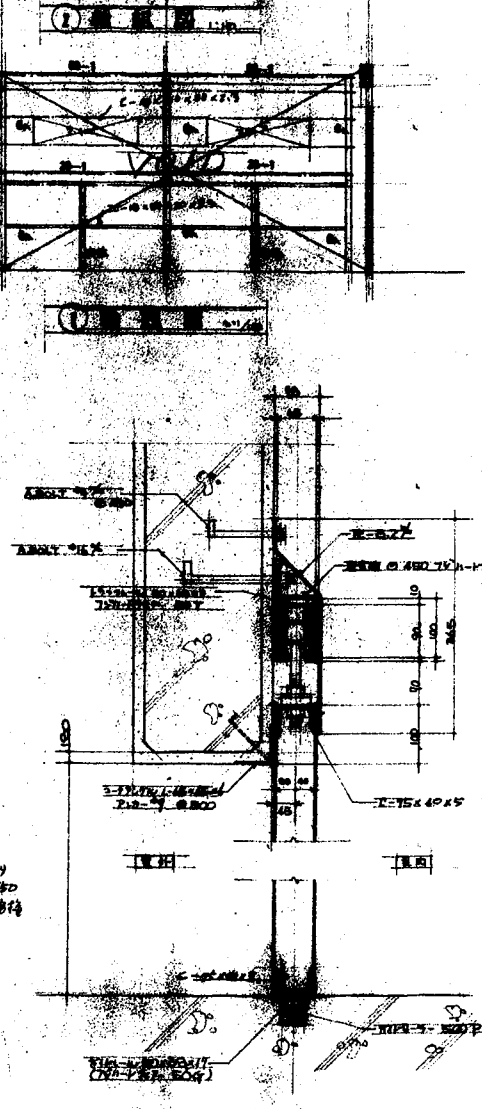
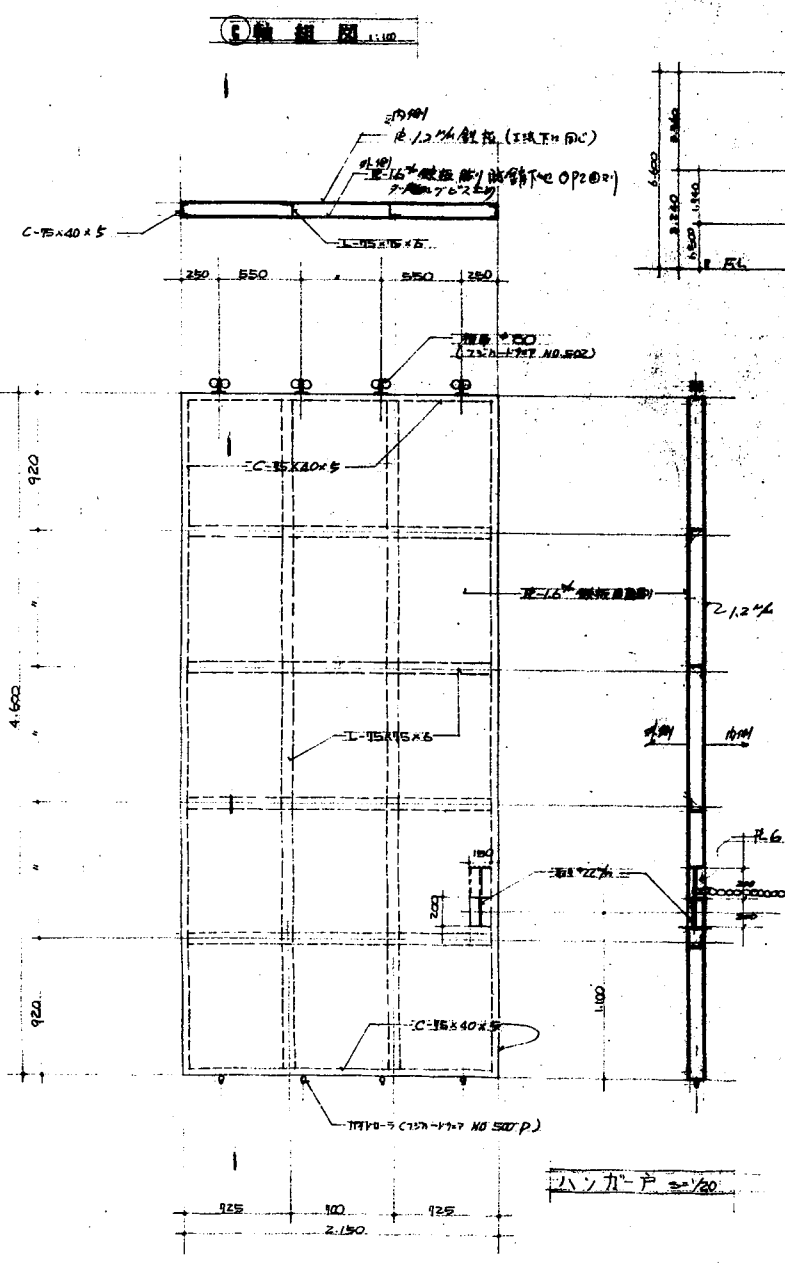
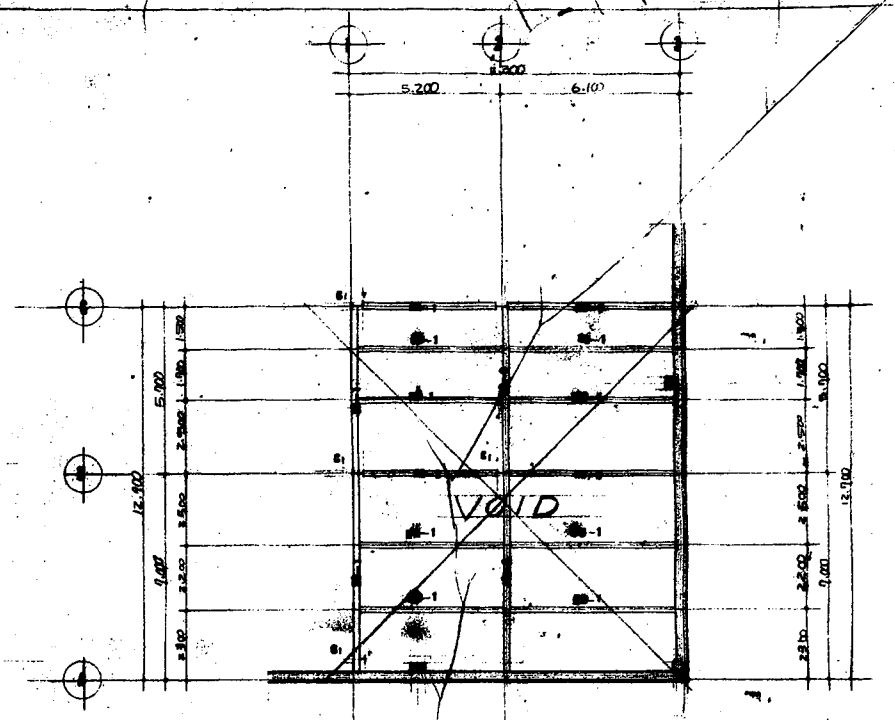
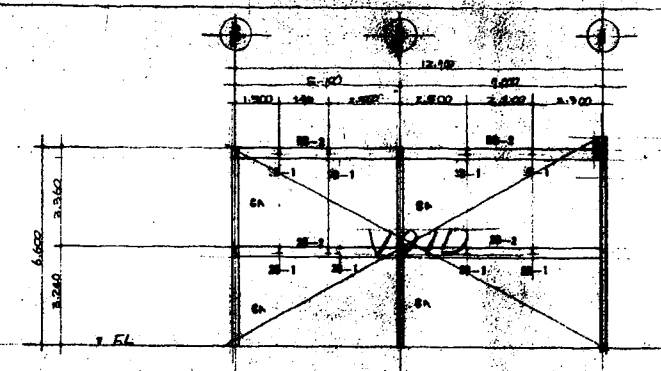
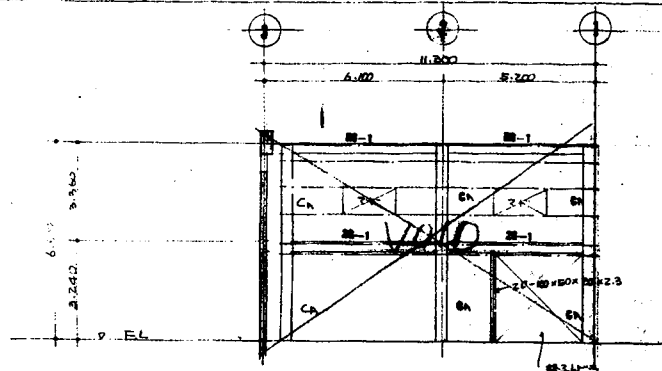
変更	那覇新港上屋 新築工事	
設計	基本断面図 5/100	区分 1972年7月5日
校訂	立 面 図 5/100	図番 31-7
承認	建築士 100号	

72MD001-008



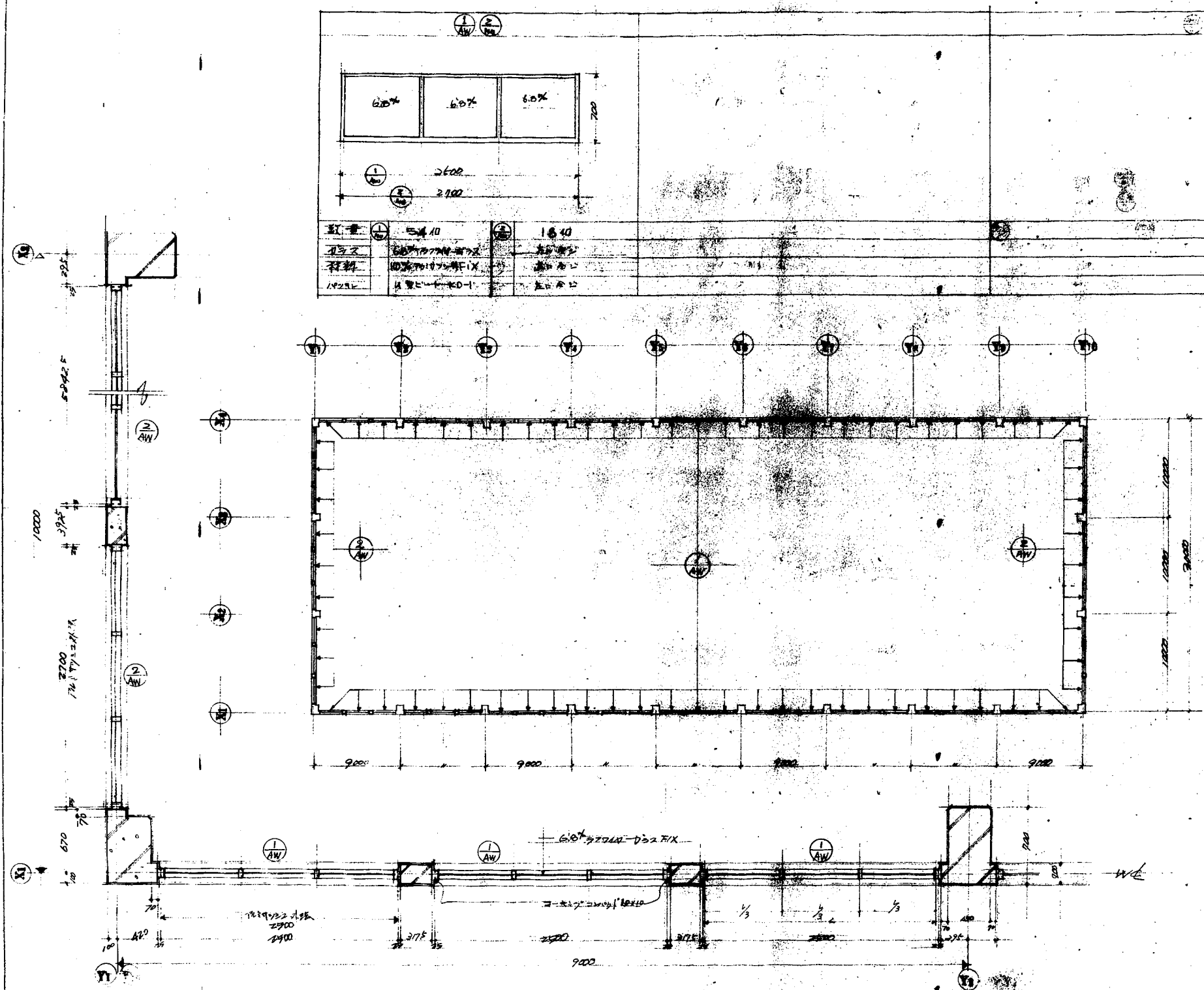
設計 美國 校訂 承認		矩計圖 9:1:20 發入口	1972年7月28日 區分 圖 31-8
建築師 建築師 No. 1		1970年1月15日	

72MD001-009



那覇新港上屋 新築工事	
設計	1972年11月5日
校訂	区分
承認	図番
建築士会印	事務所登録第10-4
一般建築士 No.104号	市長武井 一般建築士事務所

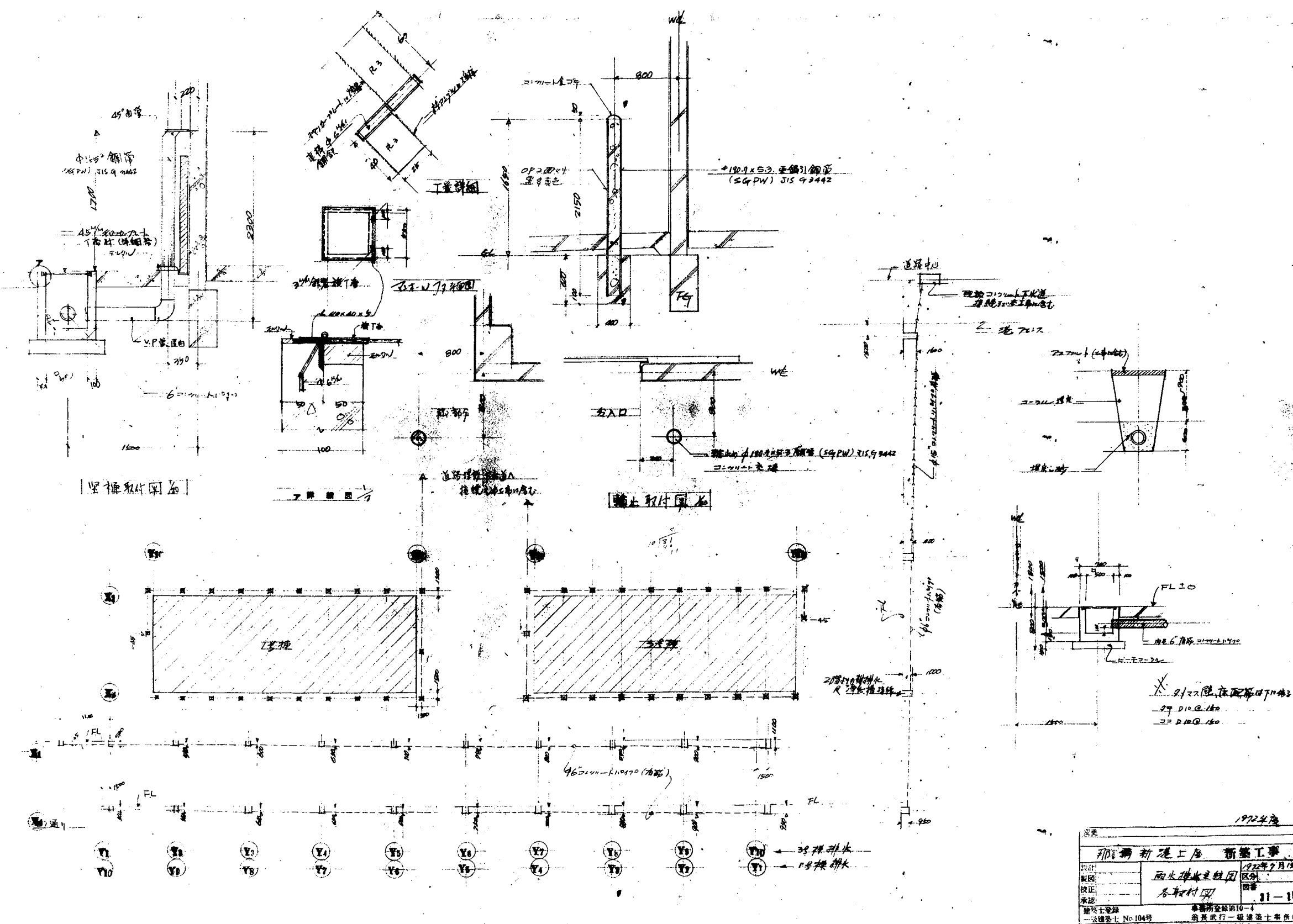
72MD001-012



数量	5.40	1.840
材料	6.0% 2700-022 FIX	1/3
材料	10.0% 2700-022 FIX	1/3
材料	1.0% 2700-022 FIX	1/3

那覇新港上屋新築工事		1972年7月15日
設計	区分	区画
製図	図番	31-14
校正	建築士登録第10号	前長武行一級建築士事務所
承認	建築士登録第104号	

72MD001-013

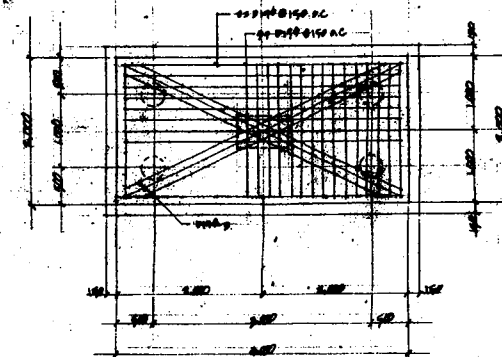
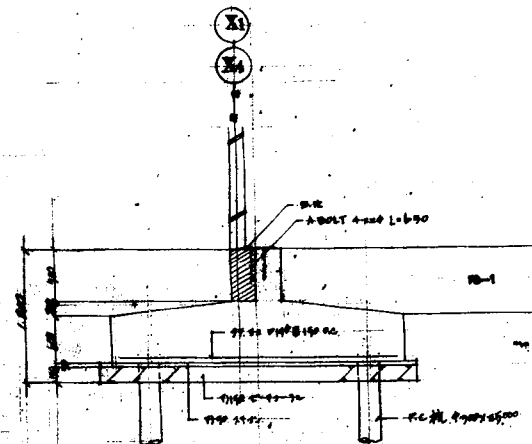
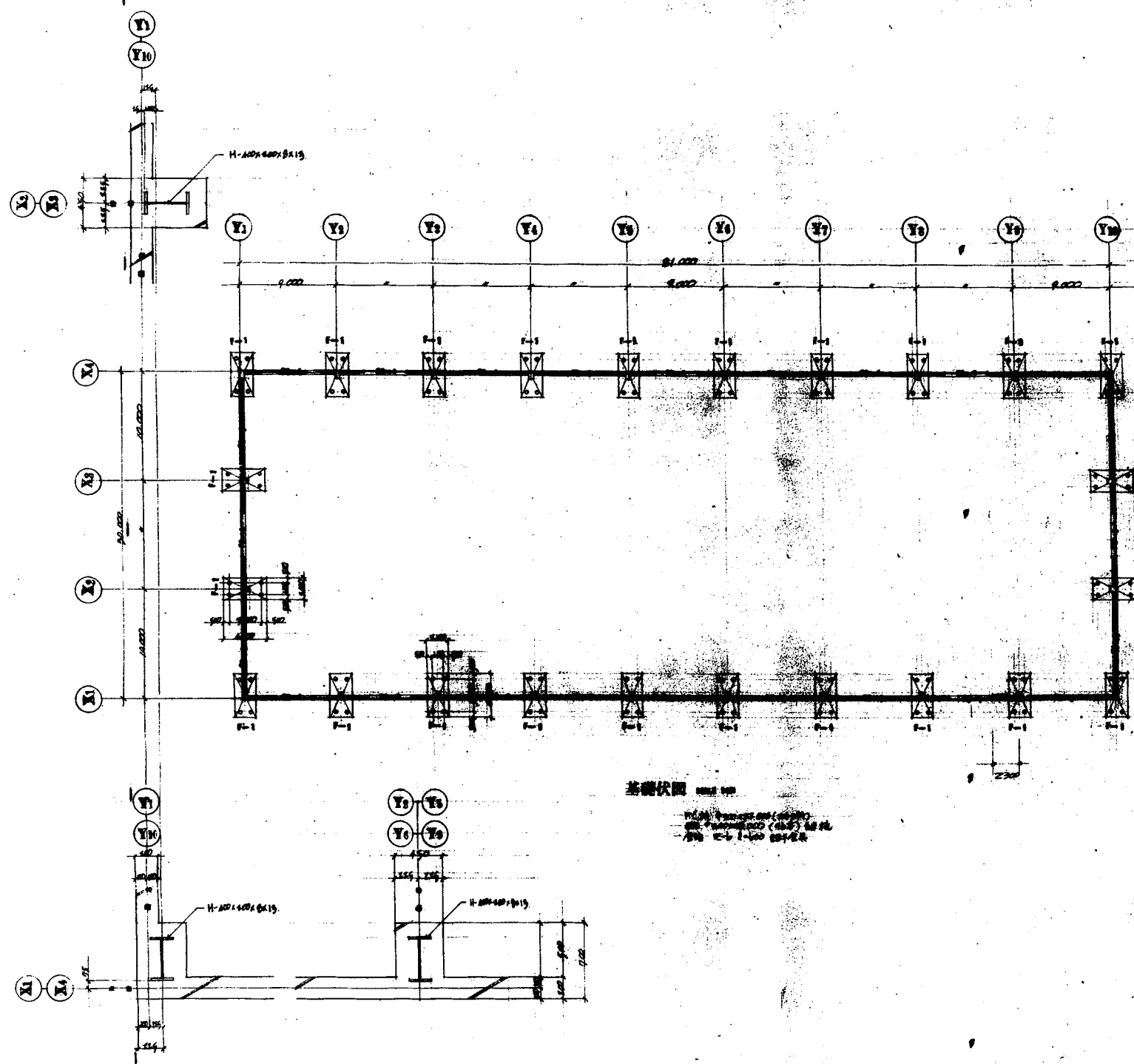


1972年度

那覇新港上層 新築工事	
設計	西水排水設計図
製図	各材料図
校正	
承認	
建築士登録	事務所登録第10-4
一級建築士 No 104号	新築武行一級建築士事務所

31-11

72MD001-014



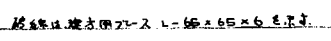
柱おとし詳細図 1/20

那覇新港上屋 新築工事	
設計	1972年7月15日
製図	基礎概略 1/20
校正	21-17
承認	事務所登録第10-4
No.104号 新築工事 一級建築士事務所	

72MD001-015

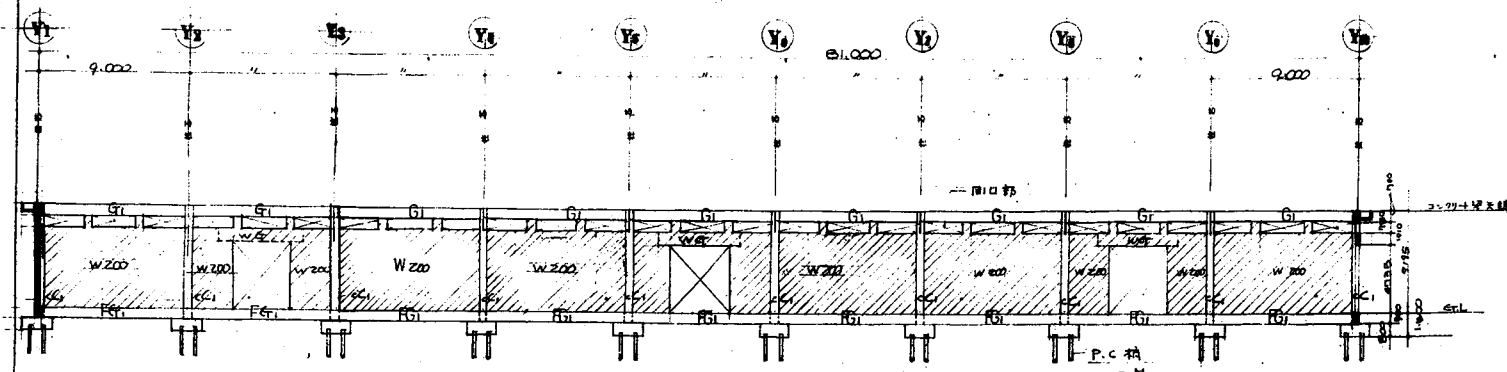


特許 1271-24 金工 1917 年 5 月 23 日

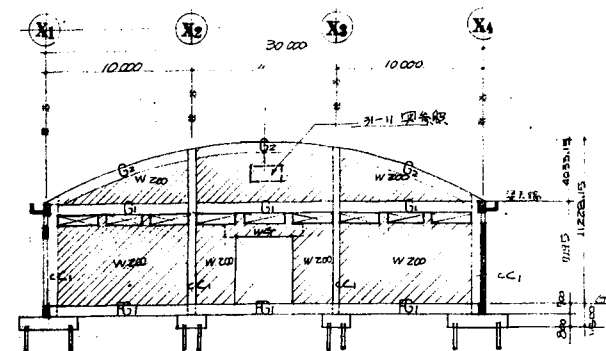


新築工事			1972年 7月
設計	小屋 伏園	1/200	2/20
監修	軸組	1/200	2/20
校正			
承認			31

72MD001-016



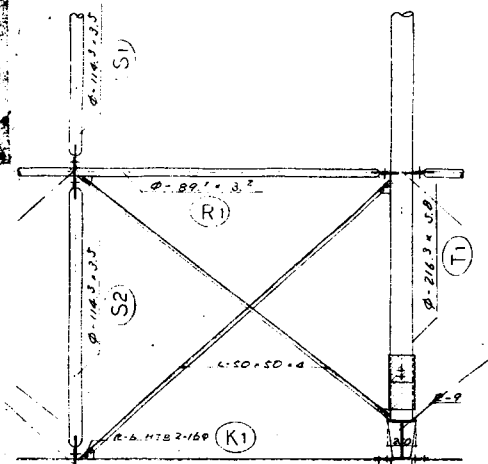
(Y) (Y) 通し軸組図 S=11200



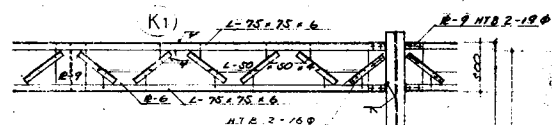
(X) (X) 通し軸組図 S=11200

記号	(G1)	(G2) (集約)	(F1)	(C1) (集約鉄筋工字材)	コンクリート壁	土間コンクリート
リスト断面図 S=1300	<p>○ 8-D19 ST. D10@250</p>	<p>○ 8-D19 ST. D10@250</p>	<p>○ 8-D19 × 2-D13 ST. D10@250</p>	<p>○ 8-D19 Hoop D10@300</p>	<p>外 97.33 D16@200 内 97.33 D16@300</p>	<p>1400×1400 1500×1500 1600×1600</p>

1972.2.2
那覇新港上屋新築工事
軸組図 S=11200
断面リスト
31-18



上弦面群細図 1/30



(X) 通り輪組詳細図 1/30

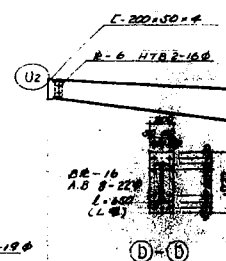
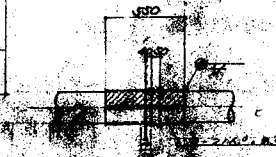
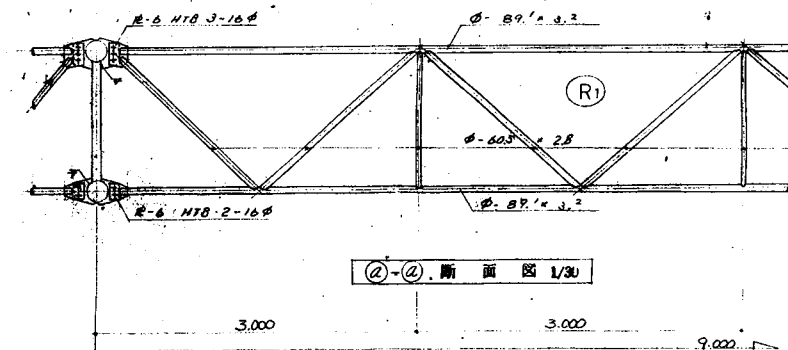


Fig. 9-150
Web R-6
JOINT
Fig. 9-150
Web R-6
Fig. 9-150
Web R-6
Fig. 9-150
Web R-6



柱脚詳細図 1/30

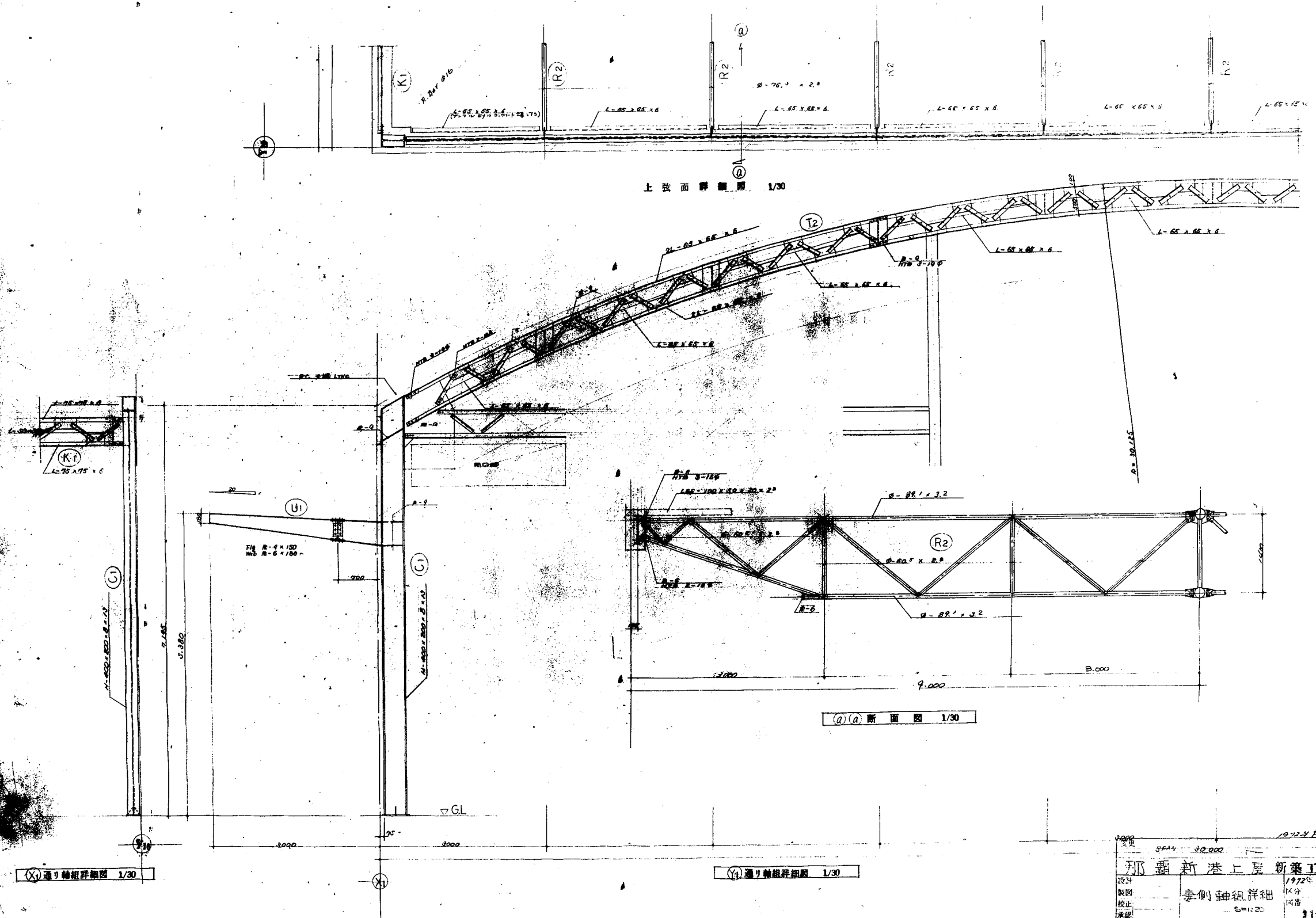


(2)-(2) 断面図 1/30

サブラス群細図 1/30

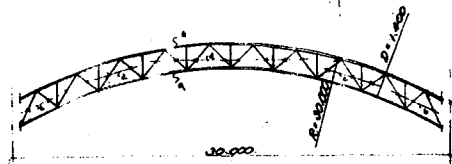
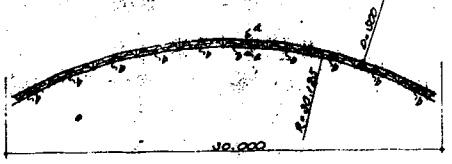
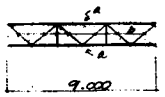

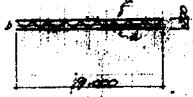







1972年	
那覇新港上屋新築工事	
設計	1972年2月
製図	区分
校正	図番
承認	第1-1
建築士 No. 104号	

72MD001-021



1972.4.12	
SPAY 00.000	
那覇新港上屋新築工事	
設計	1972年7月15日
製図	4分
校正	4分
承認	31-2
建築士登録	事務所登録第101号
一般建築士 No.104号	設計者 建設省土木研究所

72MD001-022

<p>T₁</p>  <p>32,000</p> <p>10,000</p> <p>216.3 x 5.8</p> <p>114.3 x 4.2</p> <p>101.5 x 3.2</p> <p>89.1 x 3.2</p>		<p>T₂</p>  <p>32,000</p> <p>10,000</p> <p>216.3 x 5.8</p> <p>114.3 x 4.2</p> <p>101.5 x 3.2</p> <p>89.1 x 3.2</p>			
<p>R₁</p>  <p>9,000</p> <p>89.1 x 3.2</p> <p>60.5 x 2.8</p>		<p>R₂</p>  <p>9,000</p> <p>89.1 x 3.2</p> <p>60.5 x 2.8</p>		<p>K₁</p>  <p>9,000</p> <p>175 x 75 x 6</p> <p>50 x 50 x 4</p>	<p>S₁</p>  <p>9,000</p> <p>114.3 x 3.5</p> <p>76.3 x 2.8</p> <p>60.5 x 2.8</p>
<p>C₁</p>  <p>9,000</p> <p>H-400 x 200 x 8 x 13</p>		<p>U₁</p>  <p>9,000</p> <p>Flg R-9 x 150</p> <p>Web R-6</p>		<p>U₂</p>  <p>9,000</p> <p>Flg R-9 x 150</p> <p>Web R-6</p>	
<p>H₁</p>  <p>9,000</p> <p>L-75 x 75 x 6</p> <p>R-6 HTB 2-22φ</p>		<p>H₂</p>  <p>9,000</p> <p>L-65 x 65 x 6</p> <p>R-6 HTB 2-19φ</p>		<p>H₃</p>  <p>9,000</p> <p>L-50 x 50 x 4</p> <p>R-6 HTB 2-16φ</p>	

1972.2.1

新築工事

鉄骨断りリスト

設計 区画

製図 区画

校正 区画

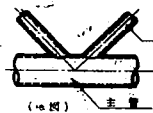
承認 区画

1/1000

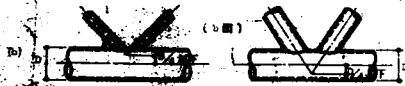
鋼管構造標準接合部一覽表

昭和45年2月15日 スリット部を改正

1. 主管と支管の接合



主管と支管の接合は中心に交わることを原則とする。(a)図



主管と支管の接合は中心に交わることを原則とする。(b)図



支管外径 (D₂) は、主管外径 (D₁) の1/2以上とする。
(両管の接合部は、支管の中心に交わることを原則とする。)(c)図



支管の中心の交わりは原則として避ける。
やむを得ない場合は、支管の中心を主管の中心からずらす。支管の中心を主管の中心からずらす場合は、支管の中心を主管の中心からずらす距離を、支管の外径 (D₂) の1/2以上とする。(d)図



主管外径 (D₁) は、支管外径 (D₂) の1.5~2.0倍とする。(e)図

2. 鋼管と鋼板の接合部

鋼管と鋼板の接合部



鋼管外径 (mm)	鋼板厚さ (mm)
φ100	5
φ150	5
φ200	5
φ250	5
φ300	5
φ350	5
φ400	5
φ450	5
φ500	5
φ550	5
φ600	5
φ650	5
φ700	5
φ750	5
φ800	5
φ850	5
φ900	5
φ950	5
φ1000	5

鋼管と鋼板の接合部



鋼管外径 (mm)	鋼板厚さ (mm)
φ100	5
φ150	5
φ200	5
φ250	5
φ300	5
φ350	5
φ400	5
φ450	5
φ500	5
φ550	5
φ600	5
φ650	5
φ700	5
φ750	5
φ800	5
φ850	5
φ900	5
φ950	5
φ1000	5

3. 鋼管の接合

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

4. 鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

5. スリット継手

スリット継手

スリット継手

スリット継手

スリット継手

スリット継手

スリット継手

スリット継手

スリット継手

スリット継手

スリット継手

スリット継手

スリット継手

スリット継手

スリット継手

スリット継手

スリット継手

スリット継手

スリット継手

スリット継手

スリット継手

スリット継手

スリット継手

スリット継手

スリット継手

スリット継手

スリット継手

スリット継手

スリット継手

スリット継手

スリット継手

スリット継手

スリット継手

スリット継手

スリット継手

スリット継手

スリット継手

スリット継手

スリット継手

スリット継手

スリット継手

スリット継手

スリット継手

スリット継手

スリット継手

スリット継手

6. 鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

7. 鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

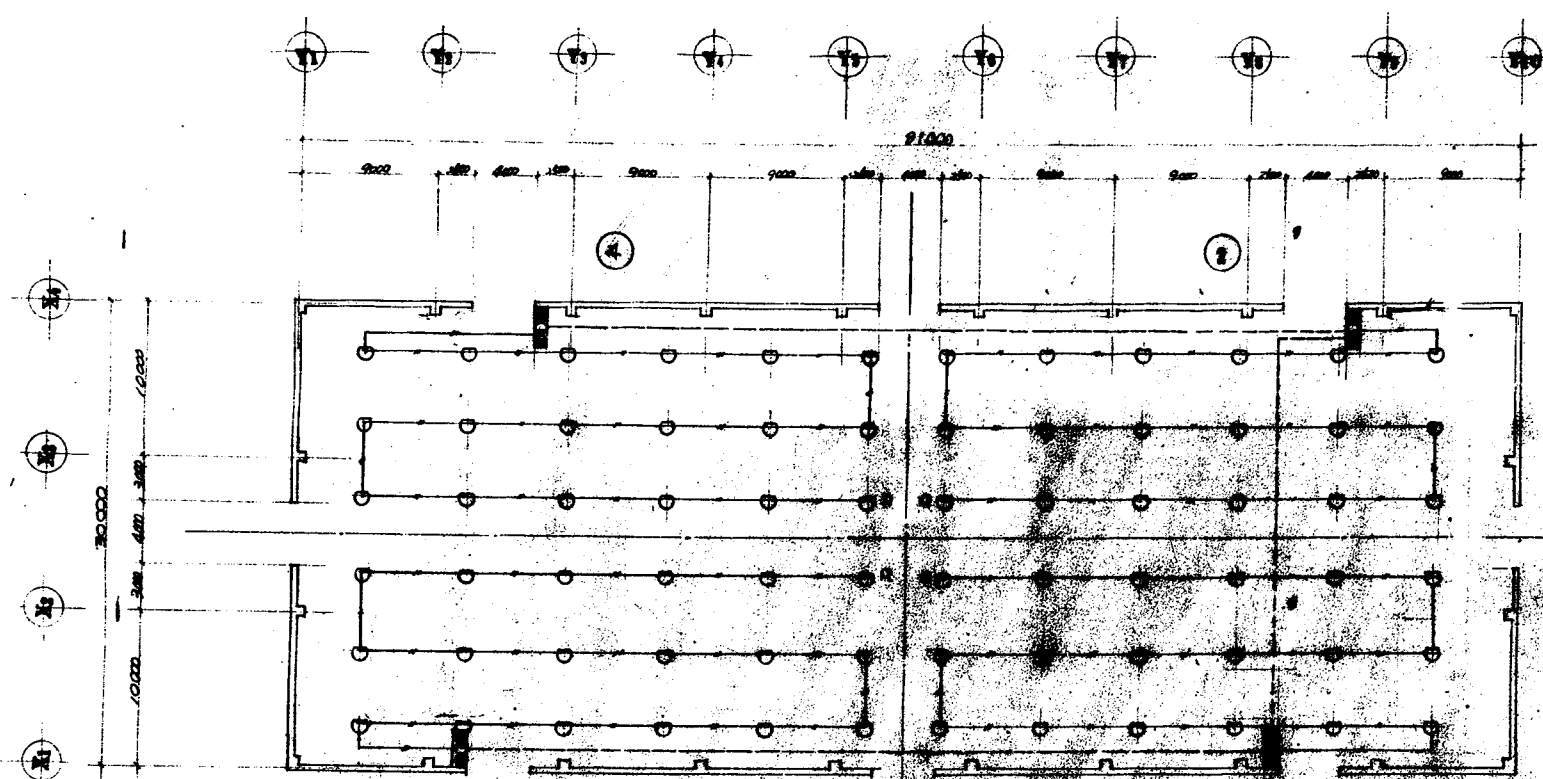
鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

鋼管の接合部

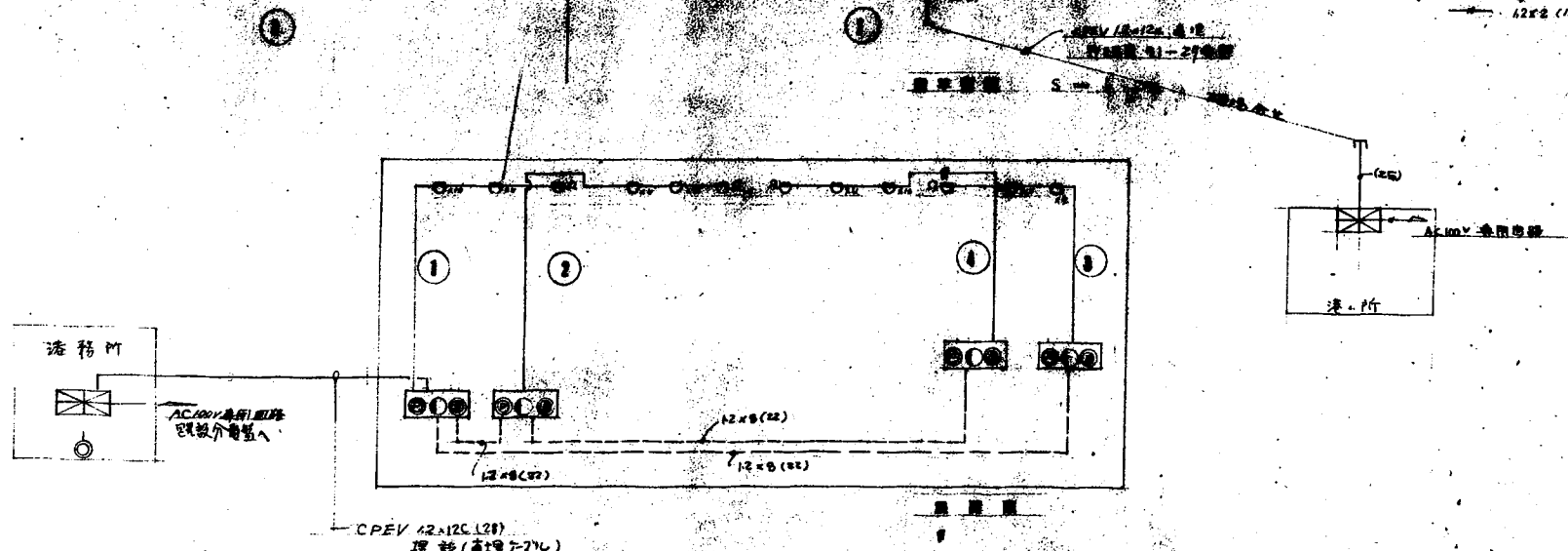
鋼管の接合部



凡例

記号	名 称	備 考
⊗	受信機	P型1級6回線
□	組合器	
●	受信機	P型1級
○	機 器	50V 3.5W
●	電 源	DC 24V 100mA
○	交流電源	肩動式2線
○	無線電機	20KΩ
—	電 線	
⊗	上 上	ポイント5-72
⊗	電 源	① ~ ④

受信機は2線式で下記の通り
→ 12x2 (16)

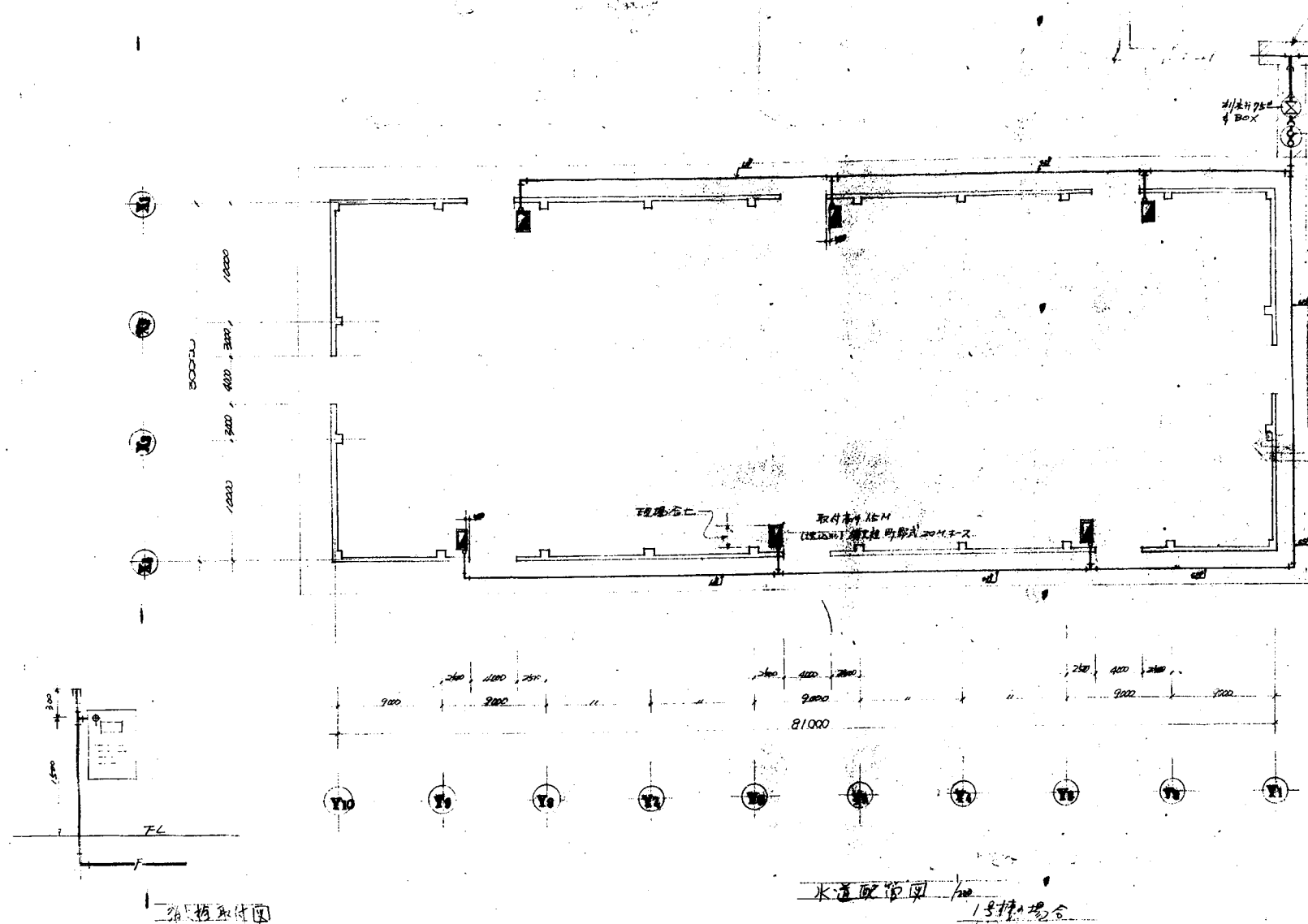


変更 1972年度

設計	新築工事	1972年2月15日
製図	火災報知器	区分
校正	配線図	15番
承認		31-29

建築士登録 事務所 No. 1017 建築士事務所

72MD001-025



- 仕様書**
- * 消火栓は前面部に消火栓の文字を記入する。箱のサイズは200mm x 200mm。開口部の消火栓は両面式とする。
 - * 室内消火栓の取付高は1500mmに取付けること。
 - * 箱は全量鋼製 (JIS G 3443) とし、材質は鋼板2.0mm以上、耐火性能は耐火1時間以上とする。
 - * 屋外の設置時は600mm以上、1.0m以上の高さの壁面に設置し、雨よけを設ける。
 - * 本工事は電柱等と接続する場合は、別途設計図を提出する。

変更	
那覇新港工区 新築工事	
設計	1992年 7月 15日
製図	区分
校核	図番
承認	31-31
監理士 佐藤	事務所 第10号
代印 佐藤	No. 104号
	有馬武行 公 通達 十 十 十

72MD001-027